

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	A-139	14-047
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
Effect of alcohol in traumatic brain injury: is it really protective? アルコールの外傷性脳損傷に対する影響		
執筆者		
Pandit V, Patel N, Rhee P, Kulvatunyou N, Aziz H, Green DJ, O'Keeffe T, Zangbar B, Tang A, Gries L, Friese RS, Joseph B		
掲載誌		
J Surg Res. 2014 Aug;190(2):634-9. doi: 10.1016/j.jss.2014.04.039.		
キーワード		PMID
飲酒、アルコール中毒、トラウマ、TBI		24857283
要 旨		
目的： アルコールは TBI(外傷性脳損傷)に対する神経予防的働きをすると複数の研究でこれまでに報告されている。重症 TBI 患者においてアルコール中毒が死亡と関連しているという仮説を検証した。		
方法： 国立トラウマ情報バンク 7.2 版(2007-2010 年実施)では登録時に重症 TBI (Head Abbreviated Injury Score ≥ 4)の全患者に対して質問票への回答を課し、血中アルコールの値を計測した。多変数ロジスティック回帰分析を実施して推定死亡率と院内合併症を検証した。		
結果： 重症 TBI 患者全 23,983 名のうち 22.8% (n = 5461)がアルコール中毒陽性者であった。アルコール中毒陽性者は有意に院内合併症と関連があり(P = 0.001)、より高い死亡率を示した(P = 0.01)。孤立性重症 TBI 患者においてアルコール中毒は死亡率(オッズ比: 1.2, 95%信頼区間 1.1-2.1, P = 0.01)と院内合併症(オッズ比: 1.3, 95%信頼区間: 1.1-2.8, P = 0.009)に対する独立した予測因子であった。		
結論： アルコール中毒は重症 TBI 患者の死亡率に対する独立した予測因子であり、合併症比率の高値と関連が認められた。国立トラウマ・データ・スタンダードを検証した結果、先行研究と異なる結果を得た。アルコールの TBI(外傷性脳損傷)に対する神経予防的働きについて更なる検証が必要である。		